

## メープルレター（92）

冬の真っただ中。

マイナス10度からマイナス20度までの間を行ったり来たりする寒い冬が続いています。少しずつ気温が上がりながらも4月半ばまで冬が続きます。夜明けは冬至より30分ほど早くなり、晴れば青空がふーっと息抜きをさせてくれます。

孫たちには、寒さは関係ないようです。3歳の孫娘（娘の娘）は、雪が降れば、親が引っ張る橇で保育園通いをし、降りかかる雪は遊び友達なようです。先日、スケートデビューを果たしました。靴をレンタルし、近所のスケート場（夏は綺麗な大きな池）でスケートデビュー用のレンタルのイルカ（可愛いイルカの人形のようなもの）のしっぽを押しながら、歩いたり滑ったりし始めたようです。よちよち、よちよち、何ともかわいいのです。婿殿はカナダ人で、アイスホッケーで育ったようなものですから、ぐるぐる回ったり、ギューツと滑り込んだり、あー上手。娘に教えながら、スケートを楽しんでいます。あの運河がスケート場になり、オフィスまでスケート通勤をする オタワ出身ですから、お手のものです。孫娘もきっとそのうち滑れるようになるでしょう。この孫は変わった趣味で、3歳なのに行きたがるのは科学博物館か考古学博物館。最近特に興味を示したのは南米古代文明オルメックです。一体この子はどんな子になるのでしょうか。

もう一人の3歳の孫娘（義理の長男の次女）は、スキーデビューをし、高級そうなスキーウェアとスキーボードで勢いをつけて滑りだしたようです。すぐに、脚が絡まってひっくり返ったようですが、泣きもせず、立ち直ってまた滑る、スキー根性を見せ始めたようです。親も大変です。これからは、毎週末スキー場通いをすることになるのかもしれませんが。この孫娘は、元テニスプレーヤーだった母親の影響で、既にテニスにも興味を見せはじめ、パデル（テニスとスカッシュをミックスしたもののようです。近頃人気）で器用なフットワークで打ち返すようになったようです。この子は、ほおっておい

でもスポーツウーマンになるでしょう。この孫娘は、長男にとっては嫁の連れ子もいれると5人目の子供になるせいか、細かい事には気を使う暇もなく、アイパッドで真夜中までゲームで遊んでいても、そのままにしておくようです。この子は一体どんな子になるのでしょうか。

三つ子の魂といいますが、二人の同じ年の孫たちも既に、決まった運命があるのを感じます。幸せであれば、何でも良いのですが。。。老婆心でしょうか。

私の乳がんは、1月始めに二度目の手術を終え、結果もよく、1月末の放射線癌科の先生との面会で、再発の危険性は非常に低く、化学療法は必要なしと言われ、胸をなでおろしているところです。手術担当医からの依頼で万が一ということを考え再検査をした結果発見された癌細胞も取り去ったとのことでした。ただ、生検組織検査でも発見しにくい癌細胞の事を考え、撲滅のため放射線治療を受けるように勧められ、2月末から4週間受けることになりました。

癌細胞の研究をし、近頃乳がんの新薬を発見した侍博士（日本趣味で鎧、兜、刀剣のコレクションをしている）にアドバイスを聞くメールを送ったところ、バカンス先のメキシコから電話が来て、

「それは大変だったね。でも、今は、医学が発達しているから、治ると思うよ。」

「そうなら良いけで。治療をきちんと受けてみるわ。」

「そうだね。化学療法だって、進歩して副作用も少なくなって、GPS探索しているかのように、目標をしっかり決めた療法になってきているから。そうそう、癌に関する資料を送っておいたから、参考にしてみて。食事療法や癌の要因など、ためになると思うから。」

「ありがとう。ところで、私の担当の放射線癌科の先生、知り合いじゃない？ 同じ分野だし。日本が好きみたいだし。診療に行ったのに、顔を見るなり、日本の話ししかしないんだけど。40キロ東京マラソンにで参加したって言ってたわよ。」

『知ってる、知ってる。宜しく言っておいて。そりゃ、そうだよ、めったに日本人には合わないからね。君みたいな日本人だったら、病気より、そっちの方が興味があるんじゃない。でも、良い知らせだよ。君の病気がたいしたことないから、こんなことが話せるんだから。』

「それでも、もう少し、真剣に病気のことを話してもらいたかったわ。」

「そうそう、新しいコレクション始めたんだ。日本の陶器のコレクション。いいのがあるよ。今度見に来る？」

「行くー！」

あーそうなんだ。侍博士もこれが話したくて、メキシコから電話してきたんだ。

その2-3日後の放射線癌科との面会で

「彼の事ご存じですか？」

同じ分野で同じ日本愛好家なので、聞いてみると

「知ってますよ。彼の病院の研究室行ったことあります？あの人はずっとじゃないね。」

もしかしたら、研究室に鎧、兜が飾ってあるのかもしれない。

「ないです。彼のプライベート美術館行ったことあります。まともじゃないです。」

「だいたい、癌に良いとはいえ、ブロッコリーばかり彼のように食べられます？（侍博士は癌に良い食品と料理の本を出し評判になったのです。ブロッコリーもその食品の一つ）

どうも、この二人は相性が悪いようです。

「では、放射線治療をすることにしましょう。そうそう、僕は、明日からマルセイユに二か月ほどバカンスに出かけます。この年になると、冬場は南仏が良いのです。」

今頃はミモザの香りの中で走っているのかもしれませんが。我が家からそれほど遠くない所に住む、この放射線癌科の先生とも長い付き合いをすることになるのかもしれませんが。

こうした日々の中で、半年ぶりに公の席にでた初釜は、白い雪の美しい風景の中での穏やかな静かなひと時でした。お茶のお点前も美しく、一服のお抹茶も香ばしく喉元を過ぎていきました。その後の懐石やお酒ではすっかりリラックスし、総領事夫妻との話に大きな花がさきました。ドリトル先生ですか、美しい着物のお姉さん（いえ、おばさんたち）に囲まれて何とも幸せそうでした。